

日本産業衛生学会

# 関東地方会ニュース

(題字 高田 昴 筆)

発行所／日本産業衛生学会関東地方会事務局・〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1

千葉大学大学院医学研究院環境労働衛生学内・TEL(043)226-2065・FAX(043)226-2066・発行責任者／能川 浩二



世界遺産・五箇山合掌造り集落にて  
暖冬でも、やはり雪のお正月でした。  
(富山県南砺市) 稲垣昭平様提供  
平成 19 年元旦撮影

## 産業歯科保健部会にご支援を

産業歯科保健部会長 藤田 雄三 (神戸製鋼所東京本社健康管理センター)



かねてより懸案であった「産業歯科保健部会」が立ち上がりました。私が本学会に入会した 30 年前を考えるとまったく隔世の感があります。その当時は歯科関連のセクションが学会内にできるなどと

でも想像できませんでした。

日本ではいままで法準拠型の労働衛生管理が主流でした。したがって歯科保健は法にないという理由で一部は健保組合の保健事業として行われてきましたが、企業に関わっている歯科保健専門家には「自分たちのやっていることは産業保健ではないのか」という疑問が常に存在しておりました。その声を糾合して職域口腔保健研究会を続け、徐々にではありますが事業所での歯科保健のあるべき姿が見えてきたところです。

このたびはより組織的に、より学問的にこの分野の

発展を期して「部会」という形態をとることになりました。私たちが目指している部会の姿は日本産業衛生学会の特徴である多職種が一堂に会する場の効果です。その効果が実現できるよう歯科保健専門家以外の多くの職種の方々が参加され、ご支援をいただけることを願っております。

ところで結核予防法の改正を受けて胸部 X 線を定健項目に存続させるかどうかという議論が最近行われました。存続派と再考派の意見が拮抗しその議事録は読み応えがありました。そこでは安衛法の枠組み、事業者責任、定健の目的、学問的成果の行政施策への適用の仕方、等々、多くの示唆的議論が行われました。そこから私たちが得るべき教訓は、産業歯科保健にかかわっている者が以上のような真剣な議論に耐えうるものを持たなければならないという点だろうと思います。

## 第 17 回産業医・産業看護 全国協議会のご案内

三好裕司(明治安田生命)



2007 年秋の第 17 回産業医・産業看護全国協議会のご案内をいたします。従来、同協議会は全国産業安全衛生大会と連動して、同一時期、同一地方で開催されていましたが、協議会と安全衛生大会の両方に参加する学会員は

多くはなく、連動することの意味が疑問視されるようになりました。また、春季の産業衛生学会学術集会と秋季の全国協議会が同一地方会で 1 年以内に開催される場合が生じ、担当する地方会に過度の負荷が加わる反面、一部の地方会では過去 16 回で一度も開催するチャンスがなかったという状況がありました。

そこで、全国協議会開催地および開催時期に関して、全国産業安全衛生大会との連動を打ち切ること、輪番制で開催すること、学術集会(春季)と全国協議会の開催予定地が同一地方会で重なる場合には学術集会を優先すること、学術集会(春季)と全国協議会の同一地方会での開催を 1 年以上空けること、また関東地方会は会員数ならびに大学等各種関係機関が多いことより 5 年に 1 回の割合で開催することとなりました。

その結果、平成 19 年度は関東地方会が担当し、関東産業医部会、関東産業看護部会が中心となって開催することとなりました。2006 年 12 月 25 日、初回のコアメンバー(実行委員)による打合せが開かれました。講演、シンポジウム、ポスター発表、実地研修、リレーワークショップを中心に、実務的で学会員が積極的に参加できるもの、首都圏の特徴を活かしたものにします。目下、コアメンバーが企画運営委員を選定中で、2007 年 2 月 24 日に企画運営委員会を召集する計画です。

以下、内定事項をご報告いたします。皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

開催日時:2007 年 11 月 2 日(金)~11 月 4 日(日)  
場所:東京プリンスホテル、東京慈恵会医科大学  
メインテーマ:これからの健康管理、産業保健を求めて(仮題)

企画運営委員長:三好裕司

企画運営副委員長:福本正勝、神保恵子

## 第 234 回例会報告

原谷隆史(労働安全衛生総合研究所)

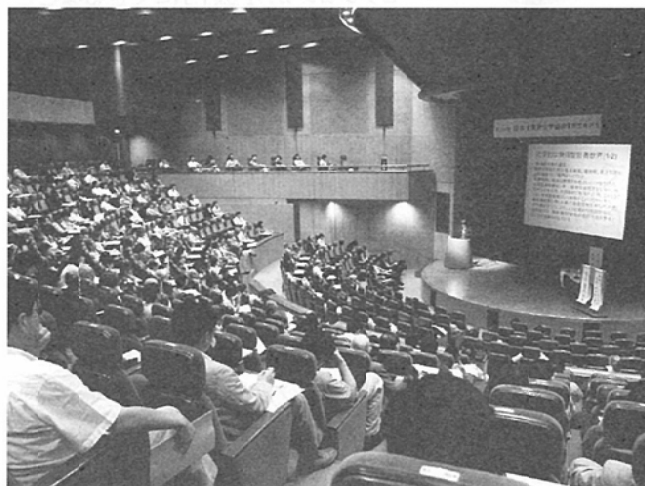


2006 年 9 月 16 日(土)に早稲田大学国際会議場井深大記念ホールで第 234 回例会を開催した。東京都医師会との共催として、日本医師会認定産業医研修、日本産業衛生学会産業看護職継続教育

実力アップコース研修を兼ねて、4 名の専門家の先生方に過重労働とメンタルヘルスに関するご講演を頂いた。筆者(原谷)が当番幹事であり、大塚泰正(労働安全衛生総合研究所)が事務局を務めた。参加者は会員 121 名、非会員 131 名の合計 252 名であり、大勢の方々にご参加頂いた。

諏訪園幹事長のご挨拶に続いて 4 題の講演が行われた。講師及び演題名は、黒木宣夫先生(東邦大学助教授)「過重労働と精神障害」、角田透先生(杏林大学教授)「長時間労働者への面接指導について」、川上憲人先生(東京大学大学院教授)「職場のメンタルヘルス対策の効果的な進め方」、池田智子先生(茨城県立医療大学助教授)「中小規模事業場におけるメンタルヘルスの推進」であり、座長は原谷が務めた。過重労働やメンタルヘルスに関する最近の資料や知見が示され、わかりやすく実践的な示唆に富んだ講演であった。

例会の開催にあたっては、講師の先生方、能川地方会長及び地方会事務局の先生方、会場運営のボランティアの方々等のご協力、ご支援を頂いた。心より感謝申し上げる次第である。



## 第 235 回例会(一泊)および 第 50 回見学会の報告

宮本俊明 (新日鐵君津)



2006 年 12 月 1 日と 2 日、第 235 回例会(一泊)および第 50 回見学会が千葉県木更津市にて、本吉光隆企画運営委員長(千葉県医師会理事)のもと、千葉県産業衛生協議会、君津木更津医師会との共催で開催

され、学会員をはじめ近隣の産業医や保健師・看護師および衛生管理者などが多数参加した。

近年職場においても、万一の事態に備える危機管理や、職場環境や作業内容等に潜むリスクを評価し、確実に対策を実施するリスクマネジメントの重要性が叫ばれている。そのため今例会は「産業保健における危機管理とリスクマネジメント」をメインテーマとして企画された。

例会に先立つ事業場見学会ではかずさ DNA 研究所と新日本製鐵(株)君津製鐵所に合計で学会員 56 名と非学会員 40 名の参加者が訪れ、熱心に最新の研究施設や生産設備を見学した。

例会初日は危機管理関連で並行して 2 題の講義・実習が行われた。「集団災害発生時のトリアージについて」(中田敬司氏; 東亜大学)では、トリアージ(傷病者の緊急度と重症度による治療優先順位付け)の基礎、篩い分け(Sieve)と選別(Sort)の技法紹介の後、小グループで多数の想定事例を交えてトリアージ実習や討論を行った。実際の災害現場で用いられるトリアージタグも現物を使用した。「産業保健と救急医療連携」(北村伸哉氏; 君津中央病院)では、多数の労災事例の紹介とともに病院到着前の対処法として、富津市消防本部救急隊員による AED(自動体外式除細動器)を用いた蘇生法と JPTEC(外傷病院前救護ガイドライン)に基づく救護の実演が行われた。いずれも日頃の準備・訓練が万一の際に生命を救うことを印象付けるものであった。

同日夜の懇親会では、能川地方会長の挨拶で始まり、清水理事長や多くの来賓からのご挨拶を賜り、プロによる生演奏のなかで 120 名の参加者による懇親と活発な意見交換が行われた。

2 日目はリスクマネジメント関連で、まず「職場の風土改善の試み」(永島昭司氏; 三井化学市原)と題し、職場の観察と組織風土調査を基に職場に合った対策を提案、実施する活動が紹介された。成功例のほか苦心した事例もあり、参加者が持ち帰り実践する上で大いに示唆に富むものであった。次いで「職場で有害因子を見つけ改善する」(甲田茂樹氏; 労働安全衛生総合研究所)では、アクションチェックリストを用いたリスク評価法と優先順位を含めた改善提案技法が紹介された。実習は参加者が実際の工場の映像を視聴し、アクションチェックリストを用いて小グループで討論するバーチャル職場巡視の形式で行われ、現場ですぐ展開できるリスク評価・改善法を学んだ。

ランチョンセミナー 2 題「メタボリックシンドロームの現状と対策」(白井厚治氏; 東邦大学佐倉病院)と「睡眠時無呼吸の病態生理と診断」(磯野史郎氏; 千葉大学)も多く参加者を集め、例会は初冬の寒さも跳ね返す活況のうちに幕を閉じた。

例会 2 日間の参加者は学会員 80 名に非学会員 78 名であった。歯科医師会のブースや保護具展示や書籍販売のスペースも設け、多くの方の助力を得て開催ができたことを改めて感謝するしだいである。



写真上: トリアージ実習

写真下: 救護実演

## 平成 18 年度関東地方会選挙結果報告

関東地方会選挙管理委員会 委員長 山口直人

平成 18 年度日本産業衛生学会関東地方会会長、関東地方会選出理事候補者、代議員の選出結果を下記のようにご報告致します。(敬称略)

### 関東地方会会長

地方会会長の立候補者が 1 名であったために無投票により選出されました。

当選者氏名 角田 透

### 関東地方会選出理事候補者 10 名

投票総数 251(電子投票 148 票、用紙投票 103 票) 有効投票数 250 無効投票数 1

当選者氏名 括弧内は得票数

清水 英佑(189)、諏訪園 靖(174)、相澤 好治(172)、大久保 靖司(163)、藤田 雄三(158)、河野 啓子(150)、大前 和幸(150)、角田 透(143)、加地 正伸(134)、土肥 誠太郎(115)

次点者氏名 括弧内は得票数

1. 川上 憲人(114)、2. 田中 茂(42)、3. 浜口 伝博(25)、4. 加藤 登紀子(21)

### 関東地方会選出代議員 273 名

立候補、推薦による被選挙人数 613 名 投票総数 794 有効投票数 780 無効投票数 14

## 平成 18 年度関東地方会理事候補者選挙における 電子投票実施のご報告

学会理事 浜口伝博 (IT担当理事、中央選挙管理委員)

学会理事 大久保靖司 (IT副担当理事、中央選挙管理委員)

電子投票にご協力下さいました新代議員の皆様にご心よりお礼を申し上げます(今回の選挙は投票権を持つ新代議員による理事候補者 10 名を選ぶ選挙でした)。学会史上はじめて行われた電子投票でしたが、特段の問題もなく無事終了することができましたことをご報告させていただきます。

さて今回の電子投票は、2 回の模擬投票を経ることにより、システムの信頼性を高め、より人間工学的な画面設計に心がけました。本番の電子投票では、円滑に投票が行われ、開票当日の集計システムや開票セキュリティ管理のすべてにおいて順調に運営することができました。投票権者 273 名(関東地方会新代議員)のうち、電子投票された方 148 名、電子投票されなかった方 125 名で、電子投票率は 54. 2%でした。電子投票期間中の問い合わせ件数は 2 件(ID、パスワードについて)のみでした。

関東地方会選挙管理委員会の山口直人委員長からは「今後とも一層、選挙の電子化を図るべきであり、そのための重要な第一歩であると認識しています。」と、諏訪園靖事務局長からは「選挙管理委員会は、所属地方会の代議員にて構成され、すべてボランティアで運営されております。その事務手続きの負担軽減と、正確性の向上のために、今後も十分な準備の下に、電子投票の導入を進めていただきたいと思います。」とのコメントをいただきました。

今後は、全地方会での実施、および全層にわたる選挙での電子投票が検討されています。今後とも皆様のご協力を何とぞよろしくお願い致します。

## 関東産業医部会報告

福本正勝（航空医学研究センター）



関東産業医部会は、会長の三好裕司先生と、他 7 名のメンバーで活動を行っております。

日本医師会認定産業医研修会（東京都医師会共催、慈恵医師会後援）を、2006 年 9 月 3 日

（日）10:30～16:30、慈恵医大の大学 1 号館 3 階講堂で開催しました。

今回はテーマを「産業医活動をする人のために～業種・業態による産業保健、産業医の職務の重要度・優先度と最近のトピック」として、「産業医活動をする人のために」（日本産業衛生学会産業医部会編、産業医学振興財団発行）を踏まえて、研修会を行いました。内容は下記の通りです（敬称略）。

1. 産業保健からみた業種の特徴①－化学工業：有害物質による健康障害防止の実際

土肥誠太郎（三井化学本社健康管理室長、統括産業医）

2. 産業保健からみた業種の特徴②－金融保険業：生活習慣病対策・健康教育

埋忠 洋一（日本経団連顧問医）

3. 産業保健からみた業種の特徴③－旅客・道路貨物運送業：資格と身体検査、健康管理の重要性

福本 正勝（航空医学研究センター検査証明部長）

4. 生体リズムと循環器疾患・睡眠－生理学から産業保健・過重労働へ

大塚 邦明（東京女子医科大学東医療センター内科教授）

5. アスベストをめぐる健康被害とその問題点－横浜労災病院アスベスト疾患ブロックセンターの活動を通じて

武内浩一郎（横浜労災病院内科部長、アスベスト疾患ブロックセンター長、産業保健・産業医支援センター長）

当日は日曜日にもかかわらず、200 名弱の参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。開催に向けてお手伝いをいただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

## 関東産業看護部会報告

中野愛子（日立ディスプレイズ）



2006 年 4 月 1 日から労働安全衛生法等の一部が改正され、過重労働やメンタルヘルス対策の強化が図られた。産業看護職による多様な支援を今まで以上に求められているという背景から、

平成 18 年度のテーマは「職場を元気にする為のアプローチ方法」と題して、3 回シリーズで東京産業保健推進センターにて実施し、好評を博した。

第 9 回研修会「職場不適応者のアセスメントとその対応について」2006 年 10 月 27 日（金）

北里大学助教授の田中克俊先生をお招きし、職場不適応という概念、要因、不適応のアセスメント、その対策についての講義が行われた。最近増えてきた職場不適応者に対して、看護職としてどのように関わり、支援していくかについてのポイントを数多く与えて頂いた。そして、睡眠時無呼吸症候群や睡眠リズム障害による不眠が、心理・社会的反応（適応）を脆弱にし、職場不適応に陥りさせ易いので、睡眠に対する保健指導が重要であるとご指導を頂いた。

第 10 回研修会「うつ病からの社会復帰とその後のケア」2006 年 11 月 25 日（土）

日立キャピタル損害保険株式会社保健師、日本うつ病学会評議員である山口律子先生をお招きし、うつ病の特性、休職による経済的な損失と職場復帰プログラムの効果について講義が行われた。うつ病の予防と復職支援を確実に行うことは、会社の利益に貢献しているという事実を客観的なデータを基に、事業主や管理監督者に対して提言していく必要があるとご指導を頂いた。



## 関東産業衛生技術部会報告

落合孝則(富士通)

### 1. 産業衛生技術部会の成り立ち

産業衛生技術部会は、2001年4月、高知で開催された日本産業衛生学会総会で承認された専門部会です。産業衛生技術に関わる専門家相互の意見交換や技術交流を行うとともに、他の部会と連携して、総合的な産業衛生活動を円滑に推進し発展させることを目的としています。会員数は全国で2006年10月現在389名、関東では170名になりました。

### 2. 最近の話題

産業衛生技術入門(中央労働災害防止協会発行)

わが国で行ってきた労働衛生工学の各課題はもとより、欧米の Industrial Hygiene で扱っている課題まで広く網羅し労働衛生の国際化にも対応できるテキストとして2005年3月に発刊しました。このテキストは、総合的な視野をもって職場環境の評価・改善・管理を行える人材がわが国でも育てたいという期待を込め、日本産業衛生学会・産業衛生技術部会の部会員が産業衛生学雑誌に連載した講座「産業衛生技術」の改訂総集編です。

関東産業衛生技術部会研修会

産業衛生技術部会大会、専門研修会

ホームページ <http://jsoh-ohe.umin.jp/> の行事予定、新着情報をご覧くださいと分かる通り、年に数回、次世代の人材育成と活発な議論によって産業衛生技術の視点を深めていくことに力を注いでいます。

第4回産業医部会・産業看護部会・産業衛生技術部会合同セミナー

2006年で4回目になりました。当初は産業医部会と産業衛生技術部会との合同で行っていましたが産業看護部会が加わり、本年からは産業歯科保健部会が加わることになるでしょう。現場に出かけて行って、見学だけではなく、安価ですぐにできる問題解決型の改善提案をします。提案の報告会では現場の方に加え、今回は社長、総務部長、製造部長も参加して、現場の立場からできるもの、でき

ないものの反論もいただき議論しました。夜の懇親会のあとの発表準備でも、翌日の報告会でも、誰も寝ないで活発な発言をしているのがこの会の特徴です。

第3回産業医部会・産業看護部会・産業衛生技術部会リレーワークショップ

5年間かけて統一テーマ「働く人の健康を生み出す組織作り」をいろいろな視点から議論する壮大な会です。2006年は、業種と職種での現状と対応策について、希望した業種毎にグループワークを行い、問題点の抽出、改善案の提案を行いました。この結果を学会誌に掲載し、継続して行います。

産業衛生技術関連の情報

従来は部会員にメーリングリストでお送りしていましたが、関連の講演や技術情報をホームページ上でいつでも見られるようにしましたので、ご高覧ください。

<http://jsoh-ohe.umin.jp/cgi-bin/fswiki/wiki.cgi>

### 3. 入会申し込み

当部会への入会は、日本産業衛生学会員で部会規程(ホームページに掲載)に賛同する方であればどなたでも可能です。「氏名、所属、連絡先住所と郵便番号、TEL、FAX、E-mail」を下記事務局(担当:黒田)へお送り下さい。

日本産業衛生学会産業衛生技術部会  
Bureau of Occupational Hygiene & Ergonomics  
URL: <http://jsoh-ohe.umin.jp/index.html>

事務局: 産業医科大学 産業生態科学研究所  
労働衛生工学教室(担当:黒田)  
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1  
Tel:093-691-7459, Fax:093-602-1782,  
E-mail:kaori-y@med.uoeh-u.ac.jp



## 幹事会報告より

諏訪園靖(千葉大院医)  
宮本俊明(新日鐵君津)

2006 年 9 月 16 日および 12 月 2 日開催

1. 篠原厚子新幹事の就任について承認された。
2. 例会参加費の事前徴収の是非について議論された。例会における実際の参加者は申込者の 8 割程度に留まることがあるので定員到達で断っても実際は空席ができるという参加機会損失を危惧する声があった。一方で学会という性格上、学会員は当日参加を認めるべきだという声も出た。議論の結果、今後の通常例会に関しては、例えば医師会単位申請者の参加費を事前徴収とするなどの対策については当番幹事にて検討することとなった。
3. 第 236 回例会は 2007 年 2 月 10 日(土)13:55～17:20 に東京大学弥生講堂・一条ホールで開催予定。「職場における感染症対策としての予防接種の考え方」「海外勤務における健康管理上の問題」「労働衛生マネジメントシステムの展開」の 3 つのテーマについて講演を行う。
4. 第 15 回産業衛生技術部会大会は 2007 年 4 月 27 日 16:00～19:00 に大阪国際会議場にて開催予定。メインテーマを「新技術開発における産業衛生技術の展開」とし、「化学物質のリスクアセスメント」「ナノ材料の現状と未来」のテーマについて開催する。
5. 第 17 回産業医・産業看護全国協議会は 2007 年 11 月 2 日～4 日に開催。場所は東京プリンスホテル、東京慈恵会医科大学の 2 箇所で行う。企画運営委員を選出の後運営委員会を開催し内容・メインテーマ等を決定する予定。
6. 今後の地方会例会の開催予定については、次期地方会長の角田透氏に決めて頂く事でご本人の了解を得ていることが説明された。

## 理事会報告より

能川浩二(千葉産業保健推進センター)

2006 年 10 月 21 日および 12 月 9 日開催

1. 産業歯科保健部会は、規程案が一部訂正して了承された。また、部会長・藤田理事、幹事 23 名が了承された。会員が 171 人であるとの報告があった。
2. 石綿問題検討委員会は、委員長・相澤好治理事、副委員長・矢野栄二氏、事務局長・広瀬俊雄氏が選出された。第 80 回学会で石綿関連疾患に関する講座を開催することとした。
3. 産業看護部会は、高橋悦子氏の幹事追加が了承された。産業看護師数は 1185 人になったことが報告された。
4. 学会奨励賞は宮本俊明・金良晃氏の 2 名が推薦された。学会賞は川本俊弘氏が推薦された。功労賞は今村幸子・氏家睦夫・角田文男・堀口俊一氏が推薦された。名誉会員は高田勲・岩田弘敏・野崎貞彦氏が推薦された。総会で提案される。
5. 平成 19 年度事業計画について:ホームページ管理・改良を行うことが追加了承された。
6. 平成 19 年度予算案について:4 部会になったので分配の変更と全国協議会は本部から直接助成することへの変更が了承された。また、地方会・部会・委員会・研究会等も本部会計と総括する関係で同じ様式で提出する。
7. 第 82 回日本産業衛生学会(2009 年)は九州地方会で開催する。
8. 第 18 回産業医・産業看護全国協議会(2008 年)は四国地方会で担当する。
9. 会員の状況について:正会員 7343 人(2006 年 11 月 30 日現在)の報告があった。

おめでとうございます

中央労働災害防止協会顕功賞  
松島 泰次郎 先生

国際労働衛生委員会 (ICOH) 副会長 選出  
小木 和孝 先生 (労働科学研究所)

## 産業保健実践活動報告(第 14 回)

竹田 透(労働衛生コンサルタント事務所オークス)



15 年間の専属産業医活動を経て、平成 17 年 4 月に労働衛生コンサルタント事務所を開設しました。事務所名は Occupational Health Consulting Service の頭文字をとって名づけたものです。開業にあたっては、この名の通り企業の産業保健活動のサポートを中心としたコンサルティング業務を行いたいと考えていましたが、現在のところ業務の半分がコンサルティング、残りの半分は非常勤産業医の仕事、という状況です。安衛法の改正や行政の熱心な指導・監督の影響もあって、中小規模の事業場で新たに産業医を選任する動きや、積極的に産業保健に取り組む産業医を選任したいという要望も多く、非常勤産業医の需要が非常に高まっています。一方で、専属産業医等の産業保健スタッフのいる企業等からのコンサルティングの依頼も増えており、専門性の高いアウトソースへの期待を実感しています。

さて、今年度の 4 月から医師会の産業保健活動・地域産業保健センターの運営にも関与するようになりました。労働局からの委託を受け、50 人未満の事業場に対する産業保健サービスを無償で提供する組織ですが、その必要性や重要性を改めて認識しています。小規模事業場の数やそこで働く労働者数を考えると、サービスを提供している範囲はまだまだ一部だと思いますが、最近では健康診断の事後措置、保健指導、長時間労働の面接指導、復職に関する意見等々、多くの相談が寄せられ、その数も随分ふえてきています。平成 20 年 4 月からは、長時間労働者の医師の面接指導が 50 人未満の事業場にも義務化されますので、その受け皿としても十分機能できるような体制作りが急務です。

活動の中心が中小規模の事業場となり、大規模事業場とは異なる環境の中での産業保健を支援する活動に励んでいます。

活動の中心が中小規模の事業場となり、大規模事業場とは異なる環境の中での産業保健を支援する活動に励んでいます。

## 海外駐在社員の視察をして

原 美佳子(日本たばこ産業)



日本たばこ産業(株)もグローバル化に向けた施策を打ち出し、海外駐在員として多数の社員が派遣されるようになった。電話やメールなどで健康相談もあり、駐在の事業所や居住場所なども念頭に入れておく必要性が出てきた。そこでオランダ、ロシアの駐在場所や居住地区の視察と面談をかねて出張した。

《アムステルダム監査部》2006 年 8 月 16 日

事務所はアムステルダム中心から車で 1 時間弱、その周辺は田園風景が広がり静かな場所にある。執務空間は広く、プライバシーも保たれている。なお社員は業務の関係上世界中に出張があり、残される家族のケアが必要になっている。しかし治安もよく医療事情はホームドクター制で、日本語も話せる医師がいて問題は感じていないようである。

《サンクトペテルスブルグ》2006 年 8 月 18 日

P 工場は市街地から車で 10 分程度の工業地帯に、C 工場は市街地から 30 分程度の工業地帯に立地している。治安が悪く、駐在員とその家族は 24 時間体制で運転手つきでの移動となっている。

「改善 kaizen」は世界共通語になっており、P 工場ではこれを革新的なことのよう自慢していたが、内容は業務改善であり、安全の改善とはかけ離れているように感じた。

C 工場の建物は営繕中で、もとロシア軍の戦車の格納庫であった。工場内にコンテナハウスがあり、そこが事務所となっていた。工場のベルトコンベアはむき出しで、安全対策はまだまだの状態である。休憩所、更衣室や食堂も無く、増設中であった。

家族との面談では、学校の問題(日本語の勉強の補填)や子供の病気の相談が中心であった。日中の病気対応は工場に診療所があり、そこを受診できるが、夜間に相談できる体制の要望があった。

今回の視察を通じて、赴任先によってさまざまな事情があり、海外駐在員独特の産業保健ニーズがあることを実感した。



## 研究室紹介

杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室

角田 透

当教室は 2000 年 4 月より衛生学と公衆衛生学が統合して大教室になりました。現在は大野秀樹教授(教室主任)、角田透教授、高島豊教授が教室運営に当たっており、研究グループもそれぞれの教授を中心に 3 グループがあります。研究テーマの柱は「運動や食生活、嗜好などの生活習慣に着目した疾病予防対策」であり、多くの大学院生、研究生を含めたスタッフの精力的な研究活動により、基礎的実験研究から疫学的／社会学的調査研究に至る成果が出ています。角田グループは照屋浩司、上村隆元、武田伸郎、松井知子に加え、大学院生 4 人、非常勤講師 3 人で構成されています。

教育では、主に医学部 3 年生の衛生学、および 4 年、5 年、6 年生の公衆衛生学、医療科学などの科目の一部を担当しています。

研究テーマは、主に(1)生活習慣病の予防に関する研究、(2)労働者の健康の保持増進に関する研究です。具体的には (1)は 1981 年から沖縄県の一地区をフィールドとして資料が蓄積されています。最近群馬県の一地区をフィールドとする疫学研究にも参加しています。(2)はグループ員が係わる幾つかのフィールドがあります。過去には主に労働者の生活習慣の有り様と健康指標との関連について検討してきましたが、最近ではメンタルヘルス関連のテーマが多くなってきています。

心身両面からの健康の保持・増進を考えていく時に「人の生き方、生き様」についてグループ員間で熱く語られる事があります。それぞれのフィールドにおける調査研究を重ねながらも、教育者、研究者、社会人としての、成長も大事であるとの共通理解を持っています。



## 通達・行政ニュース

工藤光弘 (中災防)

労働安全衛生法等の一部を改正する法律が 2005 年 11 月 2 日に公布され、化学物質関連の規制に関し、①危険性又は有害性等の調査等(法第 28 条の 2 第 2 項)、②化学物質等に係る表示及び文書交付制度(法第 57 条及び第 57 条の 2)、③有害物ばく露作業報告(安衛則第 95 条の 6)が示された。これらの法律の施行にあたり、「労働安全衛生法等の一部を改正する法律等の施行(基発第 0224003 号、2006 年 2 月 24 日)」が示されている。①と③は、2006 年 4 月 1 日施行で、②は、2006 年 12 月 1 日施行である。

①の概要は、労働者の健康保護の観点から有害性等を調査し、必要な措置を講じるよう努めなければならないとしている。また、有効な実施のため、厚生労働大臣が指針を公表するとしている。指針は、「化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針」として、2006 年 3 月 30 日に公表された。

②の概要は、容器などへの表示・MSDS について、有害性のみならず、危険性をも対象とし、その表示等についても標章(例えばドクロのマーク)を導入するなど、国連勧告と整合性をとるために法改正が行われた。この詳細に関し、化学物質等に係る表示及び文書交付制度の改善関係の通達(基発第 1020003 号、2006 年 10 月 20 日;基安化発第 1020001 号、2006 年 10 月 20 日)が公表され、また、裾切値に関しては、個々の物質ごとに定めた「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令等の交付について(厚生労働省発表、2006 年 10 月 20 日)」が公表されている。

③の概要は、労働者の化学物質へのばく露の程度、健康障害の発生のおそれがある作業等を把握するために、安衛則が改正され、厚生労働大臣が定める化学物質に労働者を従事させているときは、必要な事項を記載し、所轄労働基準監督署に報告しなければならないこととされた。平成 18 年度の対象となる化学物質は、「有害物ばく露作業報告書の提出について(基安発第 0322002 号、2006 年 3 月 22 日)」で公表されている。

# 3部会フリーページ

## 産業看護部会の紹介

関東産業看護部会幹事

武田 桂子(NEC)



産業衛生学会の産業看護部会  
会員数は現在 1155 名で、「産業  
看護師」の登録数は、1150 名  
(2006 年 7 月 31 日)になりました。

その中で、関東産業看護部会  
会員数は 438 名であり、全国の産  
業看護部会会員数の 38%を占めています。一方、  
健保連所属の看護職は 689 名ですが、まだ何処に  
も所属していない看護職も多くいるのが現状です。

関東地方会看護部会では 2006 年は、東京産業  
保健推進センターと共催で実力アップコースとして、  
「職場を元気にする為のアプローチ」と題して 3 回  
シリーズで研修会を開催しました。第 1 回目 52 名、  
第 2 回目 45 名、第 3 回目 30 名の方の参加があり  
ましたが、看護部会会員数からみるとまだ参加人  
数は少ない状況です。

今回は、下記表で各県の産業看護職活動を紹  
介します。ほぼ各県で産業保健推進センターと協  
力し、短縮Nコースや基礎コースなどを開催し、研  
修会は年 3 回以上行い、産業看護職継続教育の

単位申請や押印も担当しています。

産業看護部会員の裾野を広げるため、ネット  
ワークづくりに、また産業看護部会本部の活動内  
容を積極的に伝えることも一つの役割と考え、産業  
看護の定義・産業看護継続教育システムのPR活  
動も行っています。今後は、一人職場や産業医が  
非常勤の職場で頑張っている看護職をうまく含め  
て組織化し、連携できるように活動の幅を広げて行  
きたいと思っています。

産業看護部会の活動は下記ホームページより検  
索してください。

<http://sangyo-kango.xsrv.jp/info/>



都県名	東京	神奈川	茨城	千葉	埼玉	栃木	群馬	地方会 産業看護協会
項目								
産業看護協会 会員数	270	86	28	22	11	12	9	438(合計)
発足年	1974	1997	1990	1985	1987	1996	研究会 2006	研究会 1979 部会 2001
健保連連絡協議会 会員数	195	56	126	98	110	44	60	
研修回数(年)	3回	3回	4回	4回	3回	4回以上		3回
機関紙(年)	2回 「SUN」	2回 さんぽ かん	なし	なし	節目に 記念誌発行	栃木産業看護 ニュース	なし	地方会ニュース に協力
規約	○	○	○	○	○	○	なし	○
産業保健推進センター との連携	○ 実力アップ コース	○ 短縮Nコース 基礎コース	○ 短縮Nコース 基礎コース 実力アップ コース	○ 短縮Nコース 基礎コース 実力アップコース	○ 事例検討会 (月1回) 短縮Nコース 基礎コース	○ 実力アップ コース	○ 短縮Nコース 実力アップ コース(一部)	○ 実力アップ コース

## 会 員 の 声

### 産業医の娘として

豊島裕子

(慈恵医大 生理学第2 宇宙航空医学)

私の父は、昭和 33 年に当時の日本電信電話公社医務室に入社した産業医の草分けです。当時は法的な位置づけも曖昧で、業務の全てが手探りだったようです。子供心に記憶しているのは、長期病気療養明けの社員さんたちが、お土産を持って私の家を訪ねてきてくれたことです。多くは結核であったと聞いていますが、休養中の待遇などどのようであったか、子供であった私にはわかりませんが、恐らく苦しい生活の中から捻出した心づくしの品物であったと思います。そんな社員さんと言葉少なに対応する父を見ていて、「職場のお医者さん」に対する憧れが知らぬ間に育っていたようです。

しかし、10 年ほど経った頃からでしょうか、時折不機嫌な父を見かけるようになりました。後に母に聞いたところでは、頸肩腕症候群に関して組合と公社の板ばさみのような状態になっていたようです。結局、時折文句を言いながらも、復職した社員さんを機嫌よく迎え、勤務先が日本電信電話公社から NTT にかわり、父は 75 歳まで産業医を勤めあげました。「年齢制限がなければもっと働けたのに」と言いながら、80 歳を超えた現在は、循環器内科医として一般病院で働いています。

また、父は研究好きな人で、昭和 33 年の入社時に Siemens 社の 1-channel 心電計を電電公社に購入してもらい、当時は健康診断の項目ではなかった心電図をせっせと記録しては学会報告などしていました。最後の学会報告は 70 歳の折の通信医学会であったと記憶しています。

私は大学卒業後、神経内科医として大学病院に勤務していましたが、出産を機に人生を考え直した時、忘れていた「職場のお医者さん」が蘇ってきました。丁度空席があったので、某社健康管理センターに就職しました。父は、「親子 2 代産業医だ」と喜んでくれました。

父の時代の「職場のお医者さん」に憧れ産業医の世界に入りましたが、時代は大きな転換期を迎え、業務内容は「職場のお医者さん」と研究を合わせて行くとした生易しいものではなく、自らの夢と現実の食い違いに悩みながら 9 年間、現場の産業医を勤めさせていただきました。父に比べたら、微々たるものです。

今私は産業医学の現場から離れ、時折臨床に立ちながら研究職として働いています。紛糾した会議の席上、心筋梗塞を発症した工場長、ISO 取得のため昼夜の区別なく働き、結核を発症したグループ、コスト・人員削減で何人もの社員がうつ病に倒れた部署、そんな現場の矛盾に直接向き合う事が出来たことは、臨床家として、研究者として生きる私の原点です。産業医として長く奉職することは出来ませんでした。現場経験は何らかの形で患者様、研究テーマに還元できているのではないかと自惚れています。そして、医師としての原点に私を立たせてくれた元祖産業医の父に深く感謝し、父の健康と長命を祈る毎日です。



[写真 2005 年夏 鹿児島医学校跡にて

左;筆者父 右;筆者 ]

---

**学 会 等 開 催 予 定**


---

**第 236 回関東地方会例会**

日時:2007 年 2 月 10 日(土)13:55~17:20  
 会場: 東京大学弥生講堂一条ホール(農学部内)  
 当番幹事:坂田晃一(住金鹿島)

**第 237 回関東地方会例会・平成 19 年度総会**

日時:2007 年 6 月 9 日(土)13:00 からを予定  
 会場:慶應大学医学部  
 当番幹事:武林亨(慶應大)

**第 13 回関東産業衛生技術部会・研修会**

日時:2007 年 2 月 2 日(金)18:30~20:30  
 会場:ニコン大井製作所ウェストビル 1F 第一会議室

**第 80 回日本産業衛生学会**

日時:2007 年 4 月 25 日(水)~27 日(金)  
 2007 年 4 月 28 日(土)特別研修会  
 会場:大阪国際会議場  
 企画運営委員長:圓藤吟史(大阪市立大学大学院  
 医学研究科産業医学環境衛生)  
<http://80sanei.jtbcom.co.jp/>

**第 77 回日本衛生学会総会**

日時:2007 年 3 月 25 日(日)~28 日(水)  
 会場:大阪国際交流センター  
 学会長:森本兼囊(大阪大学大学院医学系研究科  
 社会環境医学講座)  
<http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/envi/eisei/77/>

**第 14 回日本産業精神保健学会大会**

日時:2007 年 6 月 29 日(金)30 日(土)  
 会場:名古屋国際会議場  
 大会長:小林章雄(愛知医科大学医学部衛生学)  
[http://jsomh.umin.jp/public\\_html\\_011.htm](http://jsomh.umin.jp/public_html_011.htm)

**編集後記**

新年あけましておめでとうございます。  
 関東地方会のニュースレターの編集委員になって  
 2 年が過ぎようとしています。関東地方会には、  
 種々の例会、研修会がありその報告の編集をお手  
 伝いすることにより、現社会における産業衛生学  
 会のメンバーの活動の重要性を認識できました。  
 昨年は、いじめによる自殺、全国でノロウイルス  
 による感染および集団食中毒など産業衛生学会  
 のメンバーの対応が求められる年でした。今年こ  
 そ平和で何事もなく過ぎていくことを祈っていま  
 す。(三浦)

あけましておめでとうございます。

昨年、産業保健の分野では過重労働への対応  
 強化やリスクアセスメントなどを盛り込んだ改正安  
 衛法が施行されるという大きな動きがありました。

また産業衛生学会、地方会でもさまざまな動き  
 がありました。産業歯科保健部会の発足、電子投  
 票の実施、地方会例会や各部会の特色ある活動  
 など、本ニュースでその一端でもお伝えできればと  
 思います。また、これらの動きに加えて「会員の声」  
 や「産業保健活動実践報告」をはじめとする会員  
 の息吹をお伝えすることも本ニュースの大切な役  
 割と存じます。皆様のご寄稿を編集委員一同心待  
 ちにしておりますので、なにとぞ宜しく願ひ申し  
 上げます。(山瀧)

---

**編集委員名簿**


---

稲垣弘文、今井常彦、◎大久保靖司、小峰慎吾、  
 坂田晃一、田中三千代、初見智恵、原美佳子、  
 三浦善憲、宮越雄一、○宮本俊明、森田美保子、  
 ○山瀧一、山野優子、山本健也 (50 音順)

◎編集委員長 ○事務局